



夏休みは成長のチャンス！結果より挑戦を重視！

子どもたちにとっては待ちに待った夏休み！そこで、西小「家庭学習のすすめ」を今一度・・・。「何事も土台が大切です。学習の土台は、心身の健康と豊かな体験です。」との一文がありますが、夏休み中に何か特別なことをする必要はありません。家庭のお手伝いから始まって、人（社会）や身の回りの自然に触れ、五感を働かせて、知恵をしばって問題を解決しようとする機会ができると良いと思います。夏休み中は、子どもたちに身の回りの色々なことを体験させることができるとよいでしょう。子どもたちは、そこで様々なこと（意欲や態度、工夫やあきらめない気持ちなど）を身に付ける。そして、その体験の数々が子どもたちを知らず知らずのうちに成長させてくれるはずで、肝心なのは、与えすぎないこと。失敗を責めないで「なぜ？どうして？うまくいかなかったのか？」を考えさせること。何よりも、がんばったら、そのことを思いっきりほめてあげてください。今年は、昨年よりも10日ほど長い夏休みです。誰もが平等に与えられる時間をどう使うかが二学期以降の成長の一つのカギになるかもしれません。

授業参観・学校評議委員会開催

6月21日（金）全校授業参観、学校評議委員会が開催されました。前回の授業参観同様、たくさんの保護者の方に参観していただきましてありがとうございました。皆様、ありがとうございました。来校いただいた保護者の方には、子どもたちや先生方が張り切って授業をされている様子をご覧いただけました。今回は、学校評議委員の方にも各学級を短い時間ではありましたが参観していただきました。参観後の懇談会では、委員の方からは、昔の西小の様子（昭和の時代は2,000名を超える児童が在籍していたこと。木造校舎で給食室があったことなど。）や昨今の学校の変化など、教えていただきました。改めて昨年150周年を迎えた歴史のある学校ということを再認識することができたと同時に、これからの学校のあり方についてもご意見やお考えを聞くことができました。委員の皆さんのご意見や思いを踏まえて、今後も学校経営にあたりたいと思います。今後ともご支援ご協力をお願い致します。



【評議委員さんと共に授業授業】

ベルマーク回収にご協力お願いします！

今年度、西小学校ではベルマークを回収に力を入れていきます。ベルマーク活動は、ベルマークで必要な教材や教具を購入できるだけでなく、購入金額の10%がへき地学校や特別支援学校、災害で被災した学校に自動的に寄付されるしくみになっています。

夏休み中はもちろんですが、職員がいる時であれば、いつでも学校に持ってきていただけます。授業日は、お子さんに持たせていただけると助かります。買い物をすると意外とついている商品が多いと思います。

地域の方の持ち込みも大歓迎です。職員に一声かけてください。また西公民館にも回収ボックスを後日設置したいと思います。（ただいま準備中です。）西小の子どもたちのさらなる教育環境整備のため、皆様のご協力をお待ちしています。よろしくをお願いします。



【ベルマーク活動について】

「自分たちの学校づくり」と「お友達への教育援助」。ベルマーク運動には、2つの機能があります。自分たちの学校のためにマークを集めることが自動的に、厳しい教育環境にあるお友達の役にも立つ仕組みなのです。「協賛会社」が商品に付けているマークを登録参加のPTAや公民館などが集め、整理・計算して財団に送ると1点が1円に換算されてベルマーク預金になります。その預金で、自分たちの学校に必要な設備・教材が「協力会社」から購入できます。すると、その購入金額の10%が自動的にベルマーク財団に寄付され、へき地の学校や特別支援学校、災害で被災した学校への支援、アジアの子どもたちを助けるNPOへの支援など、さまざまな教育援助活動に使われます。

これからの教育がめざすもの —群馬県教育ビジョンの概要—

今後5年間の群馬県の教育方針である第4期群馬県教育振興基本計画（教育ビジョン）が今年の4月からスタートしました。キーワードは、誰もが生まれながらにもっている「自分も相手もみんなを幸せにする」です。私たちは、子どもたちを信じ、子どもたちが「自分で考えて、自分で決めて、自分から動き出す！」といった「自立した学習者」になることを目指しています。

背景には、AIの進化、人口減少、価値の多様化、国際化、自然環境の変化（気候変動）、産業構造の変化など、急激で予測困難な社会の変化があり、今までの私たちの常識だけでは通用しない課題の出現や答え、正解のない課題が生じることも今後考えられます。これからの社会を担う子どもたちが、そうした課題を乗り越え、たくましく生きるため「教育」には、より柔軟で豊かな発想ができる「始動人」の育成が求められるとされているのです。以下に、校長として、ビジョンの解釈をまとめてみました。

＜群馬県のめざす具体的な児童の姿＞

- 粘り強く困難に立ち向かおうとする姿（あきらめない心）
- 失敗しても、そこから学び、次に生かそうとする姿（失敗を成長へ転換しようとする姿勢）
- 他者との違いを容認し、そこから学ぼうとする姿（共生しようとする姿勢）
- 他者の失敗を寛容し、励ませる姿（思いやりの心）
- 仲間と協働しようとする姿（協働しようとする姿勢）
- 探求の楽しさを感じながら学ぶ姿（知的探究心） など

＜学校・家庭・地域でできること＞

- すべてを「与える、教える」のではなく、子どもを「信じ、待つ、任せる」ましょう
→子ども自身に自己決定させる場面を意図的に取り入れることで、当事者意識、主体性を育成します。
※放任するというものではありません。自らが手本を示し「ダメなことはダメ！」と自信をもって自らの言葉で思いや願いを語ってください。
- 失敗しても「しかる」のではなく、まずは挑戦を認めてから「原因」を共に考えさせましょう
→失敗しても大丈夫という安心感が大切になります。本来、人がもっている力を信じ、失敗から学び、成長しようとする機会をもってみませんか？
- 子どもに関わるすべての大人が明るく元気に、柔軟に、ポジティブになりましょう
→大人の「価値観や経験則」「失敗させたくない」「説明せずに〇〇すべき」「あなたのため」…から、少し余裕をもって子どもと接し、共に意味を考え、意見（思い）を伝え合い、成長しようとしてみませんか？
- 子どもたちの鑑（手本）となる大人の姿を見せましょう
→子どもたちは大人の言動をよく見えています。肩に力を入れすぎて立派になる必要はありませんが、子どもたちは、ちゃんと見えています。子どもに望む姿は、大人（自身）が意識して、手本を見せてみませんか？
- 子どもは地域の宝です。みんなで当事者意識をもちましょう
社会性は、誰かだけに任せるだけでなく、多くの人と関わり、多様な価値観に触れることで育ちます
→知識だけを得るだけなら、今の時代オンラインという方法もありますが、社会性は、良くも悪くも生身の人との関係が必要です。「子育ては家庭」、「勉強は学校」という考えでなく、より多くの人と関わりと感心をもつことが、これからは重要になると思われます。

（文責：校長）

学校評議委員会での一コマです。

子どもたちの健康課題が話題となり、以前は虫歯だったが、今は視力低下が危惧されている。主な要因に「SNSの使用が関連するのでは？」との意見も。メディアコントロールが難しい子どもたちをどのように指導すべきか？では「学校だけでなく、家庭との連携がより必要」「専門家の講演開催したら？」といった意見。そして「タブレットがあれば先生が不要に？学校がいなくなる？」の話題では「電子教科書の良さもあるが、紙の良さもある」「オンラインやICT機器は道具であって学びの本質ではない。うまく使えば効果的」「やはり生身の人間の交流が成長には必要」「人との関わりで社会性が育つ」など、教育の本質に関わる話題まで、いずれもうなずける意見交換ができ、時代と共に学校に求められるものが変化してきていることを実感することができました。

なお、本校の学校評議委員は以下の方々に構成されており、様々な助言や支援をいただいています。

区長様、同窓会長様、学校医様、主任児童委員様
PTA会長様
皆様、お忙しいところ、大変ありがとうございました。

校長室から

先日、ある保護者の方が校長室によってくれました。私の体調のことを気遣ってのことのようです。本当にありがたい気持ちでいっぱいです。私の回復を自分事のように喜んでくれた姿に、途中、思わず涙があふれてしまいました。「感謝、うれしさ、申し訳なさ」が入り交った涙だったのかもしれませんが。「心がつながる」「心が動く」ことを実感した瞬間でした。

これは教育のまさに本質であり、私たち教員の原動力「この子たちために！」は、人と人とのつながり、関わりからなんだ！と再認識することができました。

本当にありがとうございます。

